



# News Letter



VOL.4  
2016年11月号

## 搾乳室を整備しました！



12月1日(木)より利用が可能となります。

利用を希望される方は、下記に連絡をお願いします。

- 1.場所： 明石会館3階(総合教育センター)
- 2.連絡：
  - 電話 総合教育センター 内2311 平日8:30-17:00
  - Mail [seiko-abe@marianna-u.ac.jp](mailto:seiko-abe@marianna-u.ac.jp) あるいは、  
[career@mairnanna-u.ac.jp](mailto:career@mairnanna-u.ac.jp)
  - \* 件名に「搾乳室利用」と入れてください。
- 3.利用時間： 平日8:30-17:00



★急な場合でも対応いたします。  
お気軽にお問い合わせください。

## MRC講演会報告

10月18日(火)に開催しました。

東北大学 加齢医学研究所加齢制御研究部門遺伝子発現制御分野 本橋ほづみ教授を招聘し、MRC (Marianna Research Council) と共催で、講演会を開催しました。本橋先生の講演では、ご専門の研究に加え、女性研究者としてのキャリア形成について、また、子育てのご苦労などお聞きすることができました。講演会は26名、懇親会は15名の参加がありました。

女性研究者支援として、今後もMRCと共催で講演会を実施してまいります。

本年度は、年明け2月に「介護に関する講演会」を予定しています！



## ロールモデル紹介

今回は、薬剤師Aさんの紹介です



### ★家族★

《勤務》大学病院薬剤部

《家族》7歳、5歳、2歳の3姉妹と夫の5人家族



当院転職後1年で1人目を妊娠し、出産後5カ月で復職しました。時短勤務を利用したのは部内で初めてで、休日勤務や夜勤も免除してもらっています。しかし、復職した年は子供の体調不良などで有休を使い切りました。私も夫も実家が遠く、何とか2人でやりくり、病児保育室やファミリーサポートなど利用していました。3歳差で次女を授かり、長女と同じ保育園(1歳から)に入園するために1歳半まで育休取得させてもらいました。その頃から実母が定年退職し、地方から通って育児を手伝ってくれるようになり、頼れる存在です。次女の育休明けから1年で三女の産休に入り、また1歳半までの長期の育休を頂きました。育児支援制度を可能な限り利用させてもらって、3人の産み育てと仕事も続いています。

### ★仕事と家庭について工夫していること★

3人を育てながら、仕事をするにあたり、家族からだけでなく、いろんなサポートを得て、頼れる人を持つておくことが大事だなと思っています。育児は1人で悩むより、いろんな意見のあるママたちとのつながりも心強く感じています。

### ★モチベーションが下がった時★

長期の育休の間に、自己研鑽のために博士課程に入りました。現場から離れる間でもキャリアアップにつながり、仕事へのモチベーションが下がらないようにと思ったからです。実際には、研究時間がとれず苦戦していますが、大学院の先生にも恵まれ新しいネットワークが生まれてよかったです。

### ★後輩へのメッセージ★

部内にもパパやママが増え、子育てしながら働くことは自然な流れだと思います。育児をしていると毎日がとても貴重で、そしてあっという間です。仕事では自分の時間ややりがいを持つてることに感謝し、家では母であり妻であり、ひっぱりだこですが、いつかは手が離れていく子供たちです。子供たちの成長とともに、仕事を続けることで自分も成長できる場所があるというのは幸せだなと思います。

### ★今後の抱負★

子供たちも母の職業を理解できる年頃になってきたので、働く母の背中を見せながら自立できる素敵女性3人に育て上げたいです。

### ★1日のスケジュール★





# 「医学部卒業後の女性医師の進路に関するアンケート」集計結果概要

これまでのアンケートは勤務している教職員を対象としてきましたが、このたび、医学部卒業生で本学に勤務をしていない女性医師へアンケートを実施しましたので、集計結果の概要について報告いたします。(HPに掲載しています。)

H28/5/12送付(自宅or勤務先)、H28/6/17〆切、回収 230/858件 (26.8%)



## 《アンケート結果の概要》

1. お子さんをお持ちの場合、同居家族が配偶者とお子さんのみの核家族が多い。
2. 大学を離れた理由には、地元に戻る、実家(開業)のケースが多い。
3. 非常勤の場合、勤務日数は週1〜6日の中で様々である。
4. 男女間で差があると感じていることに関しては、能力や大学への貢献に対する大学の期待度、施設環境整備、職員の態度や指導の仕方に不利を感じる意見が多かった。
5. キャリア継続のためには、労働条件の明確化(勤務時間の短縮や勤務時間帯の弾力化)、院内保育所の整備拡大、子育て支援、学童保育に加え、復職・再教育支援を望む意見が多かった。
6. 結婚後の働き方については、離職しない、育児の負担が軽減したら復職するが多かった。
7. その他の意見の中では、病児保育支援を望む意見、ベビーシッターのニーズがあることが分かった。
8. 大学を離れて20年以上、現在の大学の状況が分からない、という意見あり。



《集計内容抜粋》詳しくは、男女共同参画キャリア支援センターHP <http://www.marianna-u.ac.jp/career/index.html>「データ集」をご覧ください。

